

災害が起こりそうなときは…

洪水や土砂災害は、大雨をきっかけに発生することが多く、また、災害の前にはその予兆が現れる場合があります。気象状況の変化や危険箇所周辺の状況に注意し、危険を感じたら早めに避難しましょう。

気象情報に注意しましょう

気象庁は、大雨や強風などの気象現象によって災害がおこるおそれのある時に「注意報」を、また重大な災害が起こるおそれのある時に「警報」を発表し、注意や警戒を呼び掛けます。

土砂災害や洪水の危険性がある地区にお住まいの方は、気象状況に応じて発表されるこれらの情報に注意して、自主的な避難を検討しましょう。特に、避難行動に支援を必要とされる方は、早めの避難を行うことが重要です。

気象状況	気象庁の情報	市町村の対応	住民の行動等
<p>大雨の数日～約1日前</p> <p>大雨の可能性が高くなる</p> <p>↓</p> <p>大雨の半日～数時間前</p> <p>雨が降り始める</p> <p>↓</p> <p>雨が強さを増す</p> <p>↓</p> <p>大雨の数時間～2時間程度前</p> <p>大雨となる</p> <p>↓</p> <p>大雨が一層激しくなる</p> <p>↓</p> <p>広い範囲で数十年に一度の大雨</p>	<p>警報級の可能性</p> <p>大雨に関する気象情報</p> <p>大雨注意報</p> <p>大雨警報(土砂災害)</p> <p>記録的短時間大雨情報</p> <p>土砂災害警戒情報</p> <p>大雨特別警報(土砂災害)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 心構えを一段高める 職員の連絡体制を確認 今後の気象状況に注意 <ul style="list-style-type: none"> 災害準備体制(連絡要員を配置、防災気象情報を把握) 災害注意体制(避難準備・高齢者等避難開始の発令を判断できる体制) 避難準備・高齢者等避難開始(発表中の注意報に、夜間に警報発表の可能性が高いと記載されている場合) <ul style="list-style-type: none"> 避難準備・高齢者等避難開始(台風の暴風域に入る前に) 災害警戒体制(避難勧告の発令を判断できる体制) 土砂災害発生危険度が高まっているメッシュ内の土砂災害警戒区域等に避難勧告 災害対策本部設置 最大危険度のメッシュ内の土砂災害警戒区域等に避難指示(緊急) 特別警報の住民への周知 メッシュ情報を参照し、避難指示(緊急)等の対象区域を再度確認 	<p>Point 備えは大丈夫?</p> <p>気象情報やハザードマップを確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 心構えを一段高める 土砂災害警戒区域等の危険な箇所を把握 避難場所や避難ルートを確認 <p>最新の情報を把握して、災害に備えた早めの準備を</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表中の注意報に、夜間に大雨警報発表の可能性が高いと記載されている場合は、土砂災害警戒区域等にお住まいで避難行動に支援を必要とする方は、早めの避難 <p>Point 土砂災害警戒区域等にお住まいの方は</p> <p>地元市町村からの避難情報に留意するとともに「土砂災害警戒判定メッシュ情報」を確認し、速やかに避難</p> <ul style="list-style-type: none"> 大雨警報や土砂災害警戒情報の基準への到達が予想されるメッシュでは、土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所に避難 <p>既に重大な災害が発生していてもおかしくない極めて危険な状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難しようとしたときに屋外に出るとかえって生命に危険が及ぶと判断した場合は、少しでも命が助かる可能性が高い行動として屋内の高いところで山からできるだけ離れた部屋等で待避 <p>数十年に一度のこれまでに経験したことがないような異常事態</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元市町村から発令されている避難情報に直ちに従うなど適切な行動を! これより前の段階で、最大危険度のメッシュが出現するまでに避難を完了しておくことが重要

出典：気象庁ホームページ

雨の強さと降り方

気象庁では1時間雨量と周囲の状況を整理しています。なお、「強い雨」や「激しい雨」以上の雨が降ると予想されるときは、大雨注意報や大雨警報が発表されます。また、これらの状況は降り始めからの雨量により異なります。

1時間雨量(mm)	10mm以上 20mm未満	20mm以上 30mm未満	30mm以上 50mm未満	50mm以上 80mm未満	80mm以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る	息苦しくなるような圧迫感がある
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる
車に乗っていて	ワイパーを速くしても見づらい		高速走行時、ブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)		車の運転は危険
災害発生状況	この程度の雨でも長く続くとときは注意が必要		側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる		山崩れ、がけ崩れがおきやすくなり、危険地帯で避難の準備が必要
			地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。土石流が起こりやすい		雨による大規模な災害の発生するおそれが高く、厳重な警戒が必要

気象庁ホームページをもとに作成